

## 目次

謝辞	.....vi
はじめに	.....viii
第1章 若きウィーナーと父親像	.....3
第2章 フォン・ノイマンの青年期 (守り神としての数学的推理力)	.....31
第3章 非常に活発で、不規則な運動の測定	.....64
第4章 理論で勝負するポーカープレイヤー	.....84
第5章 公理と原子	.....102
第6章 科学に対する取り組み方と研究態度	.....122
第7章 基礎論 (混沌か論理か)	.....149
第8章 数学教授としての日々	.....173
第9章 人生の岐路	.....192
第10章 共通の興味を持った2人の相違点	.....213
第11章 フォン・ノイマンと軍備拡張時代 (権力のもとでの技術アドバイザー)	.....243

---

第12章	政治権力，人間性，社会に対する認識	.....	301
第13章	自立した知識人としてのウィーナー (応用倫理社会哲学としての技術)	.....	341
第14章	「人間」としてのフォン・ノイマン	.....	359
第15章	ウィーナーの晩年 (再びゴーレム)	.....	387
	最後に	.....	414
	注	.....	432
	索引	.....	480